

法政大学大原社会問題研究所

# 所 報

(2004. 2.1～ 2.29)

## □刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』 544号 (2004年3月)

## □図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	28	23	51
受 贈	47	24	71
合 計	75	47	122

## □閲覧サービス

### 閲覧

開館日数	22日
閲覧人員	28名
貸出図書	19冊

### コピーサービス

学外	32件	3844枚
学内	6件	721枚

## 日 誌

- 4日 戦後労働運動研究会  
各時期においてピックアップすべき問題項目の検討  
『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会
- 7日 加齢過程における福祉研究会  
テーマ：「有料老人ホーム－現状と課題」  
報告者：山本清夫氏（全国有料老人ホーム協会事務局長）
- 17日 戦後社会運動史研究会  
テーマ：「雑誌『前進』と山川均－1949年前後の史的位相をめぐって」  
報告者：大野節子
- 18日 『日本労働年鑑』編集会議

- 23日 共同研究プロジェクト  
ジャーナリスト・ユニオン研究会  
テーマ：「放研（放送研究集会）活動と視聴者運動」

報告者：松田浩氏（元立命館大学教授）

- 24日 事務会議

- 25日 運営委員会

議題①来年度の運営委員（兼任研究員）について

②来年度の兼任研究員について

③客員研究員について

④嘱託研究員について

⑤共同研究プロジェクトについて

⑥その他

記念公開講演会

講演者：井上枝一郎氏（労働科学研究所システム安全研究グループ研究主幹）

テーマ：「最近の労働災害の特徴について」

研究員総会

懇親会

- 26日 重複図書を下記機関にリユースする。大阪社会運動協会425冊、香川大学経済研究所49冊、東京大学経済学部図書館96冊

大原社会問題研究所雑誌 No.546 (2004年6月号)  
2004年6月25日発行  
定価1000円（本体952円）、年間購読料12000円

編集（兼）発行人 法政大学大原社会問題研究所  
所長 相田利雄  
〒194-0298 東京都町田市相原町4342  
電話042 (783) 2307

## 投稿募集

本誌は社会・労働問題に対する論文、調査報告を募集しております。下記の規定に基づいてご投稿下さい。

### 投稿規定

1. 投稿原稿は2部とし、ワープロ作成による未発表のものに限ります。
2. 原稿の分量は、原則として20,000字以内（図表を含む）とします。
3. 原稿には、審査に資するため、600字以内の要約を添付してください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。
5. 初めて投稿される方は、研究歴など簡単な履歴を添付してください。
6. 掲載原稿には、所定の原稿料をお支払いいたします。

#### 【原稿送付先】

〒197-0298 東京都町田市相原4324

法政大学大原社会問題研究所

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会

#### 論文執筆要領

論文を執筆される場合には、下記の点に留意してください。

執筆者校正の際には、原則として原稿を返却しませんので、原稿のコピーを確保しておいて下さい。

原稿をプリントアウトする場合には、ある程度の行間を取って下さい。

#### 1 一般的な原則

- ① 横書きとする。
- ② タイトル、氏名の次に簡単な目次をつける。
- ③ 原稿の最後に、執筆者名（ひらがな）、肩書き（所属、職名）を記入する。肩書きは大学の場合には、学部、研究所等の名称まで表記する。
- ④ 注をつける場合には、各章ごとに分割せず、最後に一括し、通し番号をつける。
- ⑤ 図、地図などは、可能な限りトレース済のものを提出する。

#### 2 注記の方式

##### ■日本語の図書・論文の場合

- A. 日本語で書かれた図書については、①著者名、②書名（書名は『』で囲む）、③出版社名、④発行年（原則として西暦）の順に書く。ページ数を記入する場合には、発行年の次に記入する。
- B. 著者が2人の場合には、両者の姓名を書く。3人以上の場合には、「——他」の方式も可とする。
- C. 論文については、①執筆者名、②論文名（「」で囲む）、③掲載雑誌名（『』で囲む）、④巻号、⑤発行年月日の順に書く。
- D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

##### ■欧文の図書・論文の場合

- A. 欧文の図書については、①著者名、②書名、③発行地（あるいは出版社名）、④出版年を書く。書名は、イタリックにするので、下線を引くなどして書名の部分を他の部分と区別する。
- B. 論文の掲載雑誌名は、イタリックとする。
- C. 再出を示す「ibid.」「op. cit.」などもイタリックにする。
- D. 注の最後は、かならず「。」で止める。

以上